

# 外来種ってなんだろう？

生きものを観察していると、もともと小平市にはいなかった外来種を見つけることがあります。外来種とは、人によって他の地域から運び込まれた生きもののことです。外来種が入ってくると、元からいた生きものが食べられたり、すみかを奪われたりしてしまいます。また農作物に被害を与えるなど、私たちの暮らしに思わぬ影響を与えることがあります。

しかし外来種には罪はありません。ペットが放されたり、荷物にまぎれて運ばれたりして、人に連れてこられた生きものです。ペットは最後まで責任を持って飼う、花壇の土を雑木林に捨てない、など、これ以上外来種が増えないようにするためにはどうしたらいいか、みんなで考えていきましょう。

※ここで紹介した6種類はすべて小平市に生息する外来種です。

**特** 特定外来生物：生態系に与える影響が大きいことから「外来生物法」により飼育や移動などが禁止されている外来種



アメリカオニアザミ (花: 7~10月)



アカボシゴマダラ



マダラロリカリヤ



アライグマ



ミシシッピアカミミガメ



アメリカザリガニ

# 行ってみよう！ こだいらのみどり

## ・コゲラの森 (小平市鈴木町一丁目)

小平市の南東部の鈴木小学校近くにある小さな雑木林です。大きくなりすぎた木を切ったことで、若い木々が育ち、明るい雑木林となりました。スミレの仲間など、もともと林にあった植物がよみがえり、昆虫類や野鳥も増えています。



## ・野火止の雑木林

野火止用水沿いには、クヌギやコナラが中心の雑木林が点在し、昔ながらの武蔵野の面影が見られます。「市の鳥」として小平市民に親しまれているコゲラや、カブトムシ、クワガタムシなど、かつて小平市内に広く生息していた生きものたちに親しむことができます。



## ・玉川上水

江戸のまちに水を供給するために1600年代に掘られた水路です。開設当時は約43kmもの素掘りの水みちで、現在は羽村取水口から四谷大木戸までの約30km(開渠区間)が国の史跡に指定されています。渡り鳥をはじめとする生きもの重要な移動経路になっており、武蔵野の生きものたちの貴重な生息環境です。



## ・野火止用水

水の少ない武蔵野台地では、玉川上水から多くの用水が引かれました。最初に引かれたのが、埼玉県まで延びる野火止用水です。トンボやカエルなど水と陸を行き来する動物や、湿った場所が好きな植物などが見られ、市内で最も生きものが豊かな場所のひとつです。



小平市いきいき協働事業  
制作・発行：小平市環境部 環境政策課 水と緑と公園課  
特定非営利活動法人 NPO birth

# こだいらの 生きものを 探しにいこう！

～雑木林・用水～

## こだいらの自然と生物多様性

小平市は武蔵野台地にあり、もとは水が少ない場所でした。江戸時代に玉川上水が掘られると、そこからアミの目のように用水が引かれました。用水のまわりには畑や雑木林がつくられ、その恵みを受けて、人々が暮らせるようになりました。水と緑のつながりがあることが、小平市の自然を豊かにしています。雑木林や用水には数多くの生きものが暮らしています。生きものどうしは複雑に関係し合って生きており、種類が多ければ多いほど、自然は豊かになっていきます。このことを生物多様性と言います。食べものやエネルギーなど自然の恵みを受けて生活している私たち人間も、生きものたちの輪の一員です。



雑木林の植物



ホタルブクロ (花: 5~7月)



キンラン (花: 4~5月)



タチツボスミレ (花: 3~5月)



ムラサキシキブ (実: 10~11月)



クヌギ (花: 3~4月)



コナラ (花: 3~4月)



ウグイスカグラ (花: 2~4月)



エゴノキ (花: 5~6月)



雑木林の生きもの



シジュウカラ



ニホンカナヘビ



ヤマトタムシ



コゲラ



ホンダタヌキ



カブトムシ



メジロ



ルリタテハ



ゴマダラチョウ



用水の生きもの



アズマヒキガエル



ハグロトンボ (ヤゴ)



ドジョウ



ハグロトンボ (成虫)



カマツカ



ナベタムシ



草原の植物・生きもの



カントウタンポポ (花: 3~5月)



ハクセキレイ



ホトケノザ (花: 3~6月)



アゲハチョウ



オンパッタ



オオカマキリ



希 国または東京都の絶滅のおそれのある生物をまとめた「レッドリスト」に記載されている生きもの